

# 令和6年度 後期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校

令和6年度12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)							
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率	
1 家庭・地域連携	学校・家庭・地域が連携した教育の推進	①保護者や地域住民と連携して教育活動を行っている。	児童、保護者、教職員、地域アンケートの肯定率	80%以上	A	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇全体的に肯定率98%と高い評価を得ている。</li> <li>◇児童の意見からも地域へ出向いた学習や交流は、学習効果が高いと思われる。</li> <li>◇2学期は1学期よりも地域との交流学習や体験学習を多く取り入れ、児童も意欲的に活動する姿が見られた。</li> <li>◇数多くの地域連携学習を推進することによって、子どもたちは、今の生活が歴史や社会とのつながりの中で成り立っていることを体験を通して実感できている。</li> </ul> <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆引き続き、校外学習や交流活動など地域人材が持つ知識や御経験を生かした学習機会を設けていく。</li> <li>◆地域の皆様との熟議において様々な意見を聞くことができた。いただいた様々な意見を児童の安心安全に反映させていきたい。</li> </ul>	<p>児童(地域との交流)</p> <p>保護者(地域との交流)</p> <p>教職員(地域との交流)</p> <p>地域(家庭・地域との連携)</p> <p>児童(家庭での会話)</p> <p>保護者(家庭での会話)</p> <p>教職員(参観日出席率80%以上)</p>	◎	80	11	3	0	97	3.8	98
			②ホームページや、学級通信・学校だより、CATV等で学校の取組を発信している。	保護者、教職員、地域アンケートの肯定率	80%以上	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇前期肯定率が96%という高い評価であったが、後期88%であった。前期と比べ情報発信が弱かった。</li> <li>◇保護者、地域の肯定率が高いため、発信する内容は適当であったと考えられる。</li> </ul> <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆行事が重なったり、放課後の課外活動がある場合、発信ができないことが多くなる。ポイントとなる発信は逃さず、できるだけ早く発信していく。</li> <li>◆引き続き、学校での児童の様子や学習の内容、学校での取組などについてそれぞれの立場で情報を発信していく。</li> </ul>	◎	71	29	0	0	100	3.8	
◎教頭 ○学級担任	保護者	◎	71	29	0	0	100	3.8	88						
◎教頭 ○学級担任	教職員(HP更新)	◎	57	29	0	14	86	3.2							
◎教頭 ○学級担任	教職員(通信)	△	50	17	17	17	67	3.4							
◎教頭 ○学級担任	地域	◎	75	25	0	0	100	3.8							
学校運営協議会委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この項目もよくできていると思います。地域の皆さんの御協力を得ながら防災教育にも力を入れていきましょう。</li> <li>・災害や事故防止等の取組の評価は素晴らしいと思う。</li> <li>・先生方の勤務時間や負担については、改革の途上にあると思われ、保護者や地域においても先生方の業務負担が軽減できるよう協力しなければならないと感じる。</li> <li>・児童、保護者、教職員、地域ともに同じ認識を示していることは大変良い。</li> </ul>					学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育については、地域の皆様のご協力を得ながら、より一層力を入れていく。</li> <li>・災害や事故防止等の取り組みについては、引き続き評価をいただけるよう、努力を継続する。</li> <li>・勤務時間や負担については、保護者や地域の皆様にも御協力をお願いしながら、業務負担軽減に向けて努力する。</li> <li>・今後も、安全・安心な教育環境の整備に向けて、地域の皆様との連携を深めていく。</li> </ul>								

# 令和6年度 後期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校 令和6年度12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評価	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
2 安全・安心な学校	安全・安心な教育環境の整備	①家庭・地域と連携して児童の安全な登下校に努めるとともに、災害等に適切に対応する安全教育を推進している。	児童、保護者、教職員、地域アンケートにおける肯定率80%以上	A	<b>【考察】</b> ◇全体の肯定率が100%という高い評価となった。どの児童も避難訓練に真剣に取り組んだり、安全な登下校、学校生活を送ったりすることを意識していると思われる。 ◇毎朝、見守り隊の方に見守り活動をしていただいていることに感謝したい。 ◇教職員が高い意識を持ち、緊急時対応を行うことができている。 <b>【改善方策】</b> ◆4月の地震を教訓に避難訓練をより実践的なものにしていく。余震が来ることを想定した避難訓練を行う。 ◆今後も地域の協力を得ながらこの取組を続けていく。 ◆11月の学校運営協議会熟議において下校時の安心安全な取組について話し合うことができた。いただいた意見をもとにして、児童への指導を継続していく。 ◆5・6年生は総合的な学習の時間で、3学期から防災教育の学習をしている。実際に能登半島地震のボランティアの方からの話を聞いたりしてより一層災害に対する意識を高めていきたい。	児童	80	86	14	0	0	100	3.9	100
						保護者	◎	79	21	0	0	100	3.8	
						教職員	◎	86	14	0	0	100	3.8	
地域	◎	62	38	0	0	100	3.6							
						◎生徒指導 ◎教頭 ◎学級担任								
		②やりがいを感じるとともに勤務時間を意識した働き方を推進している。	教職員アンケートにおける肯定率80%以上	B	<b>【考察】</b> ◇肯定率は97%と高いが、2評価の児童・保護者がおり改善していく必要がある。 <b>【改善方策】</b> ◆「学校に行くのが楽しくない」と回答している児童がいることから、いじめがないか注視していく。 ◆学校生活アンケートや教育相談での児童の悩み等の情報共有を引き続き行い、気になる児童については定期的に教育相談を行う。 ◆2の回答をした児童については、家庭とも連携を図りながら、改善に努める。	教職員	○	42	29	29	0	72	4	72
						◎教頭 ◎学級担任								
		③感染症対策を行っている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	<b>【考察】</b> ◇前期の92%から後期87%となった。 ◇保健委員会の啓発活動は、充実していた。 <b>【改善方策】</b> ◆保健委員会の啓発活動を感染症の流行する時期は継続して行う。エアコンを付けた際や寒い時期もしっかりと換気をし、「せっけんでの手洗い」を中心とした、感染対策への意識の向上を図る。 ◆町内・校内の感染状況の情報を基にして、迅速な感染対策を図れるようにしていく。	児童	◎	58	28	14	0	86	3.4	87
					保護者	○	35	38	18	9	74	3.0		
					教職員	◎	57	43	0	0	100	3.7		
						◎養護教諭 ◎学級担任								
学校運営協議会委員の所見		・この項目もよくできていると思います。地域の皆さんの御協力を得ながら防災教育にも力を入れていきましょう。 ・災害や事故防止等の取組の評価は素晴らしいと思う。 ・先生方の勤務時間や負担については、改革の途上にあると思われ、保護者や地域においても先生方の業務負担が軽減できるよう協力しなければならないと感じる。 ・児童、保護者、教職員、地域ともに同じ認識を示していることは大変良い。				学校の対応		・防災教育については、地域の皆様のご協力を得ながら、より一層力を入れていく。 ・災害や事故防止等の取り組みについては、引き続き評価をいただけるよう、努力を継続する。 ・勤務時間や負担については、保護者や地域の皆様にも御協力をお願いしながら、業務負担軽減に向けて努力する。 ・今後も、安全・安心な教育環境の整備に向けて、地域の皆様との連携を深めていく。						

# 令和6年度 後期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校 令和6年度12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	アンケート結果(%)																																				
		評価指標	目標値				評価	4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率																													
3 確かな学力	①ICT機器を効果的に活用し、学習への興味や関心を高めたり、個に応じた指導の充実を図ったりしている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率	80%以上	A	<p>【考察】</p> <p>◇全体肯定率は前期95%から後期98%と高い評価である。</p> <p>◇ZOOMやGoogle Meetを活用し、他校や外国の人と交流する機会が増え多様な考えに触れる機会が増えている。</p> <p>◇どの学年も週3回以上は、navimaやEILS等の活用を行い、個に応じた指導の充実を図るなど教職員が共通実践できている。</p> <p>◇タイピング・計算検定を繰り返す行うことで、学習意欲や知識・技能の習得が高まってきている。</p> <p>【改善方策】</p> <p>◆CBT調査を生かして、本校の弱いところを補充していく。</p> <p>◆新しく入れていただいた様々なアプリを「まずは教師が使ってみる」そして「児童に使わせてみる」ということを今後も大切にしていきたい。</p> <p>◆端末を活用したドリル学習やまとめ学習、話し合い学習等の一層の充実を図る。</p> <p>◆学力向上リーフレットを効果的に活用し、授業時間以外でのICT機器の積極的な活用を推進したい。</p>	<table border="1"> <tr><td>児童</td><td>◎</td><td>80</td><td>78</td><td>19</td><td>3</td><td>0</td><td>97</td><td>3.8</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>◎</td><td>60</td><td>34</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>96</td><td>3.3</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>◎</td><td>86</td><td>14</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>100</td><td>3.8</td></tr> </table>	児童	◎	80	78	19	3	0	97	3.8	保護者	◎	60	34	4	0	0	96	3.3	教職員	◎	86	14	0	0	0	100	3.8	98	◎学力向上 ◎情報教育 ○学級担任								
	児童	◎	80	78	19	3	0	97	3.8																																		
	保護者	◎	60	34	4	0	0	96	3.3																																		
	教職員	◎	86	14	0	0	0	100	3.8																																		
②基礎・基本が確実に定着し、学力が伸びている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率	80%以上	A	<p>【考察】</p> <p>◇学習に困難さや悩みを抱えた児童はいると思われるが、児童アンケートからは、1、2の評価がなくなり改善が見られる。</p> <p>◇県学力診断調査などの結果から、長文や多くの資料から必要な情報を選択し、問題に粘り強く取り組む力が必要になると思われる。</p> <p>【改善方策】</p> <p>◆望ましい生活習慣、学習習慣の定着とも連動させながら、学力向上を図る。</p> <p>◆基礎・基本を定着させるためのミニテストや先生クイズをこまめに行うことで褒める機会をできるだけ多く設け、児童のやる気を高めていきたい。</p> <p>◆宿題、なかよしタイム、授業の導入などで基礎・基本が定着するよう反復学習する。</p>	<table border="1"> <tr><td>児童</td><td>◎</td><td>83</td><td>17</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>100</td><td>3.8</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>◎</td><td>44</td><td>41</td><td>15</td><td>0</td><td>0</td><td>85</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>◎</td><td>50</td><td>50</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>100</td><td>3.5</td></tr> <tr><td>教職員(単元テスト)</td><td>◎</td><td>100</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>100</td><td>4.0</td></tr> </table>	児童	◎	83	17	0	0	0	100	3.8	保護者	◎	44	41	15	0	0	85	3.0	教職員	◎	50	50	0	0	0	100	3.5	教職員(単元テスト)	◎	100	0	0	0	0	100	4.0	96	◎学力向上 ○学級担任
児童	◎	83	17	0	0	0	100	3.8																																			
保護者	◎	44	41	15	0	0	85	3.0																																			
教職員	◎	50	50	0	0	0	100	3.5																																			
教職員(単元テスト)	◎	100	0	0	0	0	100	4.0																																			
③個に応じた家庭学習の指導を行い、家庭学習習慣が身に付いている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率	80%以上	A	<p>【考察】</p> <p>◇前期に続いて、児童アンケートでは2の評価、保護者アンケートでは2や1の評価があり、家庭学習の習慣が身に付いている児童が多いが、個人差があると思われる。</p> <p>【改善方策】</p> <p>◆一律に全員に出す課題、選択式の課題というように個に応じた対応をより充実させていきたい。</p> <p>◆学習に困難さや悩みを抱えた児童については、個別の指導計画を活用し、家庭と連携しながらよりよい支援を継続していきたい。</p>	<table border="1"> <tr><td>児童</td><td>◎</td><td>75</td><td>17</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td><td>92</td><td>3.7</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>◎</td><td>41</td><td>47</td><td>9</td><td>3</td><td>0</td><td>88</td><td>2.7</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>◎</td><td>60</td><td>40</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>100</td><td>3.6</td></tr> </table>	児童	◎	75	17	8	0	0	92	3.7	保護者	◎	41	47	9	3	0	88	2.7	教職員	◎	60	40	0	0	0	100	3.6	93	◎学力向上 ○学級担任									
児童	◎	75	17	8	0	0	92	3.7																																			
保護者	◎	41	47	9	3	0	88	2.7																																			
教職員	◎	60	40	0	0	0	100	3.6																																			
④読書に親しんでいる。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率	80%以上	A	<p>【考察】</p> <p>◇前期91%から後期81%となった。学校での読書への取組は充実が図られているが、家庭での読書について肯定率が低い保護者の回答が24%と多くなった。</p> <p>◇家庭での親子読書タイム(本について語り合う時間)を月1回行ったが、どの家庭も積極的に活用できていた。</p> <p>◇親子での読書活動を通して、本への興味・関心は高まってきていると感じる。その分、振り返りで厳しい評価となっているのではないだろうか。</p> <p>【改善方策】</p> <p>◆今後も保護者に学校の取組や児童の読書活動の様子を積極的に紹介していく。</p> <p>◆読書の時間を確保したり、教師自身の良い読書体験をエピソードとして児童に語ったりしながら読書への興味関心を高めていきたい。</p>	<table border="1"> <tr><td>児童</td><td>◎</td><td>58</td><td>25</td><td>17</td><td>0</td><td>0</td><td>83</td><td>3.4</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>○</td><td>29</td><td>47</td><td>15</td><td>9</td><td>0</td><td>77</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>◎</td><td>66</td><td>17</td><td>17</td><td>0</td><td>0</td><td>83</td><td>3.5</td></tr> </table>	児童	◎	58	25	17	0	0	83	3.4	保護者	○	29	47	15	9	0	77	3.0	教職員	◎	66	17	17	0	0	83	3.5	81	◎図書館主任 ○学級担任									
児童	◎	58	25	17	0	0	83	3.4																																			
保護者	○	29	47	15	9	0	77	3.0																																			
教職員	◎	66	17	17	0	0	83	3.5																																			
学校運営協議会委員の所見	<p>・この項目もよくできている。特にICT機器については今後必ず必要になる項目なので、よろしくお願いします。</p> <p>・読書以外の項目については、概ね高い評価となっている。読書は、好き嫌いがあると思うので、評価にバラつきがでると思うが、なるべく読書に親しんでほしい。</p>				学校の対応	<p>・ICT機器の活用を推進し、授業の質向上に努めていく。</p> <p>・読書以外の項目については、引き続き、各項目の取組を推進し、確かな学力を育む。</p> <p>・読書については、読書に親しむ機会を増やし、読書の楽しさを伝える工夫をしていく。</p>																																					

# 令和6年度 後期学校評価 報告書

鬼北町立好藤小学校 令和6年度12月

【評価基準】 A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成 4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項目	重点目標	評価指標及び目標値		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						
		評価指標	目標値					4	3	2	1	肯定率	平均	全体肯定率
4	豊かな心・健やかな体を育てる教育の推進	①元気で明るい挨拶ができています。	児童、保護者、教職員、地域アンケートにおける肯定率80%以上	A	<b>【考察】</b> ◇前期よりも、1・2評価をしている児童が減った。児童会を中心とした取組の成果が現れてきたと思われる。 <b>【改善方策】</b> ◆挨拶MVPは児童の励みになっており、今後も児童会役員を中心に挨拶運動に取り組む。 ◆とりわけ挨拶が弱くなる場面では、どのような声の大きさが良いか、どのように言えばよいかをソーシャルスキルとして指導を継続していきたい。	児童	◎	80	14	6	0	95	3.8	96
		保護者	◎	44	44	9	3	88	2.5					
		教職員	◎	71	29	0	0	100	3.8					
地域	◎	78	22	0	0	100	3.8							
						◎生徒指導 ○学級担任								
	②互いに認め合い、支え合い、笑顔あふれる明るい学校となっている。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	B	<b>【考察】</b> ◇肯定率は97%と高いが、2評価の児童・保護者がおり改善していく必要がある。 <b>【改善方策】</b> ◆「学校に行くのが楽しくない」と回答している児童がいることから、いじめがないか注視していく。 ◆学校生活アンケートや教育相談での児童の悩み等の情報共有を引き続き行い、気になる児童については定期的に教育相談を行う。 ◆2の回答をした児童については、家庭とも連携を図りながら、改善に努める。	児童(友達に優しく)	◎	75	17	5	0	92	3.7	97	
保護者(遠かい仲間づくり)	◎	62	32	6	0	94	3.5							
教職員(児童を認める)	◎	71	29	0	0	100	3.8							
児童(学校が楽しい)	◎	67	28	5	3	95	3.6							
保護者(元気に学校に行く)	◎	62	38	0	0	100	3.7							
教職員(情報の共有)	◎	100	0	0	0	100	4.0	◎道徳主任 ◎特別活動 ○学級担任						
	③楽しく運動したり、「早寝早起き朝ごはん」を心がけたりして、生活習慣の確立を図る。	児童、保護者、教職員アンケートにおける肯定率80%以上	A	<b>【考察】</b> ◇前期91%から後期88%となった。A評価ではあるが、前期同様「早寝・早起き・朝ごはん」の項目が、2や1の評価が児童17%保護者24%と多い。 ◇家庭によって児童の生活習慣への意識の差がある。本人や保護者に生活習慣が乱れたことでの困り感がないことも影響している。 ◇外遊びの項目が、児童・保護者・教職員ともに高い。保健委員会による発表で、外遊びの啓発を行ったことも影響していると考える。 <b>【改善方策】</b> ◆引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さを再度理解させ、家庭とも連携を図りながら継続的な指導を行う。 ◆保健体育の授業の中でも繰り返し「早寝早起き朝ごはん」の大切さを指導していく。 ◆「早寝・早起き・朝ごはん」の規則正しい生活習慣の要素は、学力の向上にも大きく影響していることを保護者に繰り返し啓発していく。	児童(外で元気に遊ぶ)	◎	78	14	0	8	92	3.6	88	
保護者(楽しく運動)	◎	64	27	9	0	91	3.3							
・防災教育については、地域の皆様	◎	71	29	0	0	100	3.7							
児童(早寝・早起き・朝ごはん)	◎	52	31	11	6	83	3.3							
保護者	○	24	52	21	3	76	3.3	◎体育主任 ◎養護教諭 ○学級担任						
教職員	◎	43	43	14	0	86	3.3							
学校運営協議会委員の所見	・挨拶は本当によくできていると思います。人とのつながりは、まず挨拶からなので今後ともよろしく願います。 ・概ね高い評価となっているが、児童・保護者には一部低い評価もあり、子供たちの個性や保護者の考え方、捉え方もあるのですべて高評価とならないと思う。 ・対人関係の苦手な子供や引っ込み思案の子供もいると思うので、見守りも必要と思う。 ・朝食を食べずに登校する児童がいるのに驚いた。どうしたらそのような状態になるのか児童や保護者の気持ちを知りたい。				学校の対応	・人とのつながりは挨拶から始まるということを改めて認識し、今後とも継続して取り組んでいく。 ・学校生活アンケートや教育相談での児童の悩み等の情報共有を引き続き行い、気になる児童については定期的に教育相談を行っていく。 ・児童の生活習慣について家庭とも連携を図りながら、改善に努める。								